

公正取引委員会による講演会

12月18日(金)、経済委員会は公正取引委員会より講師を招き、「我が国企業における外国競争法コンプライアンスに関する取組状況について」と題した講演会を開催し、約30名が参加した。



近年、わが国企業が海外において、日本の独占禁止法に相当する外国競争法違反で摘発されたというニュースが散見される。今後、さらなるグローバル化の進展に伴い、外国競争法に抵触しないよう社内コンプライアンス体制の整備が一層重

要になってくると考えられる。

講演では、公正取引委員会が実施した企業アンケートに基づき、わが国企業のコンプライアンス体制の整備が遅れている現状や、摘発により莫大な制裁金が科された事例の紹介があり、参加者はそのリスクの高さを再認識した。

また、万が一社内で外国競争法に抵触するような事案が発生していた場合、企業は早期に自己申告することでペナルティを軽減できる。そのためには、情報が集まりやすい環境の整備が必要であり、一例として「社内リニエンシー制度」の紹介があった。

社内リニエンシー制度とは、役職員が加担する不正事実について、社内調査開始前に自主申告し、社内調査に協力した場合には、当該社員に対する社内処分を減免を定める制度である。このような制度を整備しておくことで、外国競争法の摘発リスクを軽減できるという話に、参加者は熱心に耳を傾けていた。

(調査部 中村 哲史)

中経連

ダイジェスト

定例記者会見

12月7日(月)、中経連は総合政策会議終了後、三田会長の定例記者会見を行った。

はじめに、三田会長は平成27年の景気について、「全体では緩やかな改善が続いたが、後半、中国経済の減速などにより、やや不透明感が出てきた」と振り返り、政府に対して予算編成や税制改正、規制緩和などの施策の着実かつ速やかな実施を求めた。

次に、11月に官民で設立した「伊勢志摩サミット東海会議」の状況について、訪日サミット関係者への歓迎・案内などを行う「おもてなし」、海外メディア



に対して東海地域の産業・観光のPRを行う「地域情報発信」、ガイドブックやDVDなどを作成する「PRツール作成」の3つの事業を行うこととし、現在、詳細について詰めの作業を行っていることを報告した。

最後に、平成28年こそわが国経済の好循環や地方の創生が進展するとともに、伊勢志摩サミットの成功や各種プロジェクトの進展によって中部経済が力強く成長していくよう期待感を示すとともに、中経連としても、産学官や地域間の連携をさら

に深め、しっかりと取り組みを進めていくと決意を語った。

(総務部 伊藤 邦広)

第3回(最終回)CLM全体会合



12月15日(火)、中経連は第3回「明るい中部の未来を考えよう! 中部リーディングプロジェクトミーティング」(CLM)全体会合を名古屋市にて開催した。

CLMは将来の中部を担う若い世代の人々が、中部の将来を考え、議論することを目的に設置した会合である。8月の第1回会合から、5つのチームに分かれて「魅力と活力溢れる中部の将来像の実現に向けたリーディングプロジェクト」の検討に取り組んできた。

今回は各チームが最終プレゼンを行い、「宇宙エレベーター開発のための研究拠点を整備」「中部5県を統括する中部圏庁を立ち上げ域内交通を整備」「近未来・環境・安全・水の4つの青に関する取り組みによるイメージを発信」「外国人の誘致や水素社会の確立による住みたい中部を実現」などのアイデ

アが提案された。各プレゼン後には、事務局の審査員との間で質疑が行われ、優勝チームを決定した。

優勝チームの提案した将来像は「中部5県を一つのテーマパークになぞらえて、各地域の魅力を高め、新たな文化と技術が生まれるまちとなり、日本や世界の中心となる中部を目指す『Connect City 中部 〜つながるまち〜』」で、その実現に向けては「ものづくり技術を活かした移動手段の開発・整備や人材育成に、中部の各地域が連携し一体となって取り組む」という内容だった。

今回各チームから提案されたアイデアは、本会の今後の活動に大いに参考としていきたい。

(企画部 中川 泰彰)

MRJ型式証明審査体制に係る要望活動



12月16日(水)、中経連は愛知県等と、国産初のジェット旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)の型式証明取得に向け、国土交通省航空機技術審査センター(県営名古屋空港に設置)について、以下のとおり要望活動を実施した。

要望先:石井国土交通大臣

訪問者:大村愛知県知事、三浦中経連常務理事 等
 <要望内容>

- ①MRJの量産初号機の納入時期(平成29年4月～6月)に間に合わせるため、型式証明の取得に向け、審査能力の充実を図ること
- ②今後、米国を中心に行われるMRJの飛行試験の技術審査に係る経費など、必要な予算を確保すること

(産業振興部 加藤 信彦)

中部国際空港に「伊勢志摩サミット」 カウントダウンボードを設置



5月26日・27日に三重県志摩市で開催される伊勢志摩サミットを盛り上げるため、伊勢志摩サミット東海会議(会長:三田中経連会長)は、開催150日前にあたる12月28日(月)に中部国際空港にカウントダウンボードを設置した。

カウントダウンボードの除幕式では、三田会長、大村愛知県知事、河村名古屋市市長、石垣三重県副知事、友添中部国際空港(株)社長等が出席し、幕が引かれサミット開催に向けたカウントダウンが始まった。

設置したカウントダウンボードは、「伊勢志摩サミット2016へのゲートウェイ」とのタイトルのもと、サミット開催までの日数表示に加え、ゲートウェイである中部国際空港からサミット会場に向けて飛行機で飛び立つ姿をイメージしたデザインを中心に据えている。また、東海地域が誇る最先端ものづくり技術や、豊かな自然、伝統・文化など観光に関するパネルも周囲に配置しており、地域一体となった歓迎機運醸成の想いが込められている。なお、カウントダウンボードは5月28日まで設置する。

(伊勢志摩サミット支援推進室 和田 耕一朗)



第57回中部財界人新春サロン



1月4日(月)、中部日本放送(株)が主催する新春恒例の「中部財界人新春サロン」が名古屋市内にて開催され、中経連から三田会長が出演した。

今年で57回目を迎えるこの番組には、三田会長の他に、岡谷名古屋商工会議所会頭、勝野中部電力(株)社長、柘植東海旅客鉄道(株)社長、安井東邦ガス(株)社長、加藤トヨタ自動車(株)副社長、安藤名古屋鉄道(株)社長、梅森日本銀行名古屋支店長、大島日本ガイシ(株)社長、小笠原(株)三菱東京UFJ銀行副頭取、茶村J. フロントリテイリング(株)会長(番組冒頭紹介順)の11名が出演した。

三田会長は、5月に開催される伊勢志摩サミットについて、安全に実施されることが重要としたうえで、「多くの訪日サミット関係者にこの地域の魅力を知ってもらおう千載一遇のチャンス。ものづくりや最先端技術、これを支える伝統技術や地場産業、豊かな自然、食、伝統・文化など、地域が誇る産業・観光の魅力の世界へ発信し、海外との取引拡大や昇龍道へのインバウンド増加など、地域経済の活性化につなげていきたい」と語った。

また、人材育成について、昨年ドイツで職業教育の現場を視察したことに触れ、印象的だったこととして、学校と企業が一体となって職業の理論と実践を並行して学ばせる取り組みや、地場産業などの地域特性についてもしっかりと教え、地域住民としての誇りを高める工夫がされていることなどを挙げ、わが国も参考にすべき点があるとの考えを示した。

(総務部 伊藤 邦広)